

2025年第4回中京競馬特別レース名解説

<第1日>

○長良川特別

長良川（ながらがわ）は、岐阜県郡上市の大日ヶ岳に源を発し、揖斐川と合流して、三重県で伊勢湾に注ぐ。揖斐川、木曽川と合わせて「木曽三川」と呼ばれ、また、静岡県の新田川、高知県の四万十川とともに「日本三大清流」に数えられる。夏季を中心に行われる「長良川鵜飼」は、鵜を巧みに操って川魚を獲る漁法で、1300年以上の歴史を誇る。

○有松特別

有松（ありまつ）は、名古屋市緑区の地名。同地の名産品の有松・鳴海絞は、東海道を往来する旅客の土産品として珍重され、1975年には県下第1号の伝統的工芸品に指定されている。

○伊賀ステークス

伊賀（いが）は、旧国名のひとつで、三重県西部の市。伊賀上野城の城下町として栄え、碁盤目状に整備された町並みは小京都に数えられている。また、江戸時代前期に活躍し、「おくのほそ道」などで知られる松尾芭蕉の出生地や、伊賀流忍者発祥の地として知られている。

<第2日>

○賢島特別

賢島（かしこじま）は、三重県志摩市の英虞湾（あごわん）内にある周囲7.3kmの有人島。名前の由来は、かつては潮が引くと陸から徒歩で渡れたことから「徒越（かちごえ）島」と呼ばれるようになり、それが訛ったといわれている。伊勢志摩国立公園の中心地で、多くの観光客で賑わっている。また、2016年に開催されたG7伊勢志摩サミットのメイン会場としても知られている。

○大府特別

大府（おおぶ）は、名古屋市の南部に隣接する市。愛知用水を利用した農業が盛んで、巨峰やシャインマスカットなどぶどうの産地として有名。また、スポーツのまちとして地域スポーツに力を入れている。

○長篠ステークス

長篠（ながしの）は、愛知県新城市の地名。1575年に織田信長と徳川家康の連合軍が、武田勝頼と戦った「長篠の戦い」の古戦場として知られている。

＜第3日＞

○清洲特別

清洲（きよす）は、愛知県西部、清須市の町。戦国大名・織田氏勃興の地であり、清洲城は織田信長が居城としたことで知られている。現在は、名古屋市の衛星都市となっている。

○桑名特別

桑名（くわな）は、三重県北東部の市。江戸時代から東海道五十三次の42番目の宿場町として栄えた。熱田の宮宿からの舟着き場である七里の渡（しちりのわたし）跡や六華苑、多度大社などの名勝のほか、レジャー施設であるナガシマリゾートも有名。また、例年8月第一日曜日とその前日に行われる桑名石取祭（いしどりまつり）は、豪華絢爛な祭車が町中を練り歩き、鉦（かね）や太鼓が絶え間なく鳴り響く「日本一やかましい祭り」として知られ、ユネスコ無形文化遺産に登録されている。

○名古屋城ステークス

名古屋城（なごやじょう）は、名古屋市にある城。1609年に徳川家康の命で諸大名が築城し、完成後は尾張徳川家の居城となった。シンボルの「金の鯰（しゃちほこ）」が輝く天守閣は、現在も名古屋の顔となっている。2018年にはかつての国宝であった本丸御殿が復元されるなど、近年一層注目が高まっている。

＜第4日＞

○美濃特別

美濃（みの）は、岐阜県中南部の市。1300年以上の歴史を有する美濃和紙は、柔らかみのある繊細な風合いを持ちながらも、強くて丈夫なのが特徴で、ユネスコ世界無形文化遺産にも登録されている。江戸時代の風情漂う町並みには、元々火事の際の類焼を防ぐために屋根の両端に作られた防火壁「うだつ」を、当時の豪商たちが富を誇示するように競って設けた跡が残る。

○白川郷ステークス

白川郷（しらかわごう）は、岐阜県北西部、大野郡の庄川上流域の一帯。同地特有の茅葺家屋は、日本の木造家屋の中でも特徴的かつ合理的な造りをしていることなどから、富山県南砺市の五箇山とともに、「合掌造り集落」としてユネスコの世界文化遺産に登録されている。

○中京2歳ステークス（GⅢ）

本競走は、2025年に創設された重賞競走。小倉競馬場で実施されていた2歳馬の重賞競走『小倉2歳ステークス』が中京競馬場へ移設されたことを機に、実施距離を芝1200mから1400mに延伸した上で、競走名を改称して実施される。